OLIVE PRESS No.4

2000年7月発行
定価 350円

オリーブジャパンニュースレター

ホンデュラス特集号

オリーブジャパン　国際開発協力協会

目　次

■ チャリティーバザーの報告 ／ 住所変更のお知らせ 1

■ ホンデュラス活動報告
　エスクエリータ・デル・ソル（太陽の小さな学校） ..... 2･3

■ ボランティア体験談　No.1 4

■ エスクエリータ・デル・ソル（太陽の小さな学校）の様子 ..... 5･6

■ ボランティア体験談　No.2 7

■ 講座紹介 8

■ 講座案内 9

■ 収支報告 ／ 会員制度のご案内 10

チャリティーバザーの報告

2000年6月4日、城北橋教会（名古屋市北区）でのチャリティーバザーに参加し、約18万円の収益がありました。

この収益金はオリーブジャパンのカウンターパートであるFUNDIPRO（エルサルヴァドル）と協力して開校したホンデュラスの“エスクエリータ･デル・ソル（太陽の小さな学校）”のために使わせていただきました。

住所変更のお知らせ

事務局が移転しましたが、家賃だけで月43,000円必要で、維持・運営に苦労している状態です。今後の活発な活動のためにも、みなさまからご支援・ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

新住所

〒489-0809
愛知県瀬戸市共栄通3丁目57番地
第2泉荘 A号室

TEL･FAX　0561-85-8336

ホンデュラス活動報告

エスクエリータ・デル・ソル（太陽の小さな学校）

現地スタッフ　デリア・デル・サルト

1999年10月末にホンデュラスを襲ったハリケーン・ミッチと8月の大雨で被害を受けた人々のために、9月からエスクエリータ・デル・ソル（太陽の小さな学校）の活動が始まりました。

学校用に借りた建物は傷みが激しく、まずは建物の補修から始まりました。水道や電気設備、手洗いなどを修繕、壁の塗装、机・椅子・黒板など備品の購入をし、10月初旬には周辺に開校を知らせることができました。また避難所の責任者と話し、子どもたちの親の許可を得ました。

10月18日の開校日は35人の子どもたちが、翌日は40人が参加しました。この数にスタッフ全員大変驚き、喜びを覚えました。時間が経過するにつれ、最初の好奇心が消え人数が減ってしまうのではないかと心配していましたが、現在もたくさんの子どもたちが通ってきます。毎日必ず通ってくる28人のうち18人は避難所から、3人は学校の裏手にあるバラックから通ってきます。

この子どもたちが住む避難所の面積は約25㎡しかなく、1家族8～10人ほどが数家族で共同生活をしています。このような家庭はハリケーン以前から非常に貧しい生活を送っていました。子どもの多い家庭がほとんどで、母親が主に子どもの世話をしており、父親はほとんど子どもの教育に関与していません。子どもたちの多くは母親の作ったトルティージャや集めた薪を売ったりして家計を助けています。学校に通う年長の女の子たちは兄弟の世話や家事を手伝っています。教育が重要であるという意識が欠如しており、国立学校へ通う子どもや自分の名前を書ける人が少ないのが現状です。

エスクエリータ・デル・ソルには避難所から通う子どもたち以外にも、周辺地区の一般家庭の子どもたちも国立学校が終わってから通ってきます。

授業は月曜日から金曜日までの午後2時から5時までですが、2時から少しずつ子どもたちが集まり始めるので2時半までは自由時間とし、おもちゃなどを使って遊びます。2時半から子どもたちを集め、歌を歌ったり劇をしたり昔話を聞かせたりします。3時15分からはおやつと休憩時間です。この後、地区の中心地にあるグランドへ行きます。そしてグランドで会った子どもたちも誘って一緒に学校へ戻ります。4時からは勉強する子どもと、工作をする子どもとにグループを分けます。そして5時に終了しますが、2名のスタッフが子どもたちを家まで送りとどけます。

毎朝スタッフは、ボランティアと共にその日の活動を考えます。そして週1回、1週間の仕事の内容をふり返り、次週に何をすべきか話し合います。11月は教育カリキュラムを考えるため子どもたちのレベルを分析し、授業のプログラムを考えました。

通学してくる子どもたちは3～12歳です。彼らを3つのグループ（3～5歳、6～8歳、9歳以上）に分け、それぞれの活動を計画しました。わたしたちは特に6～8歳の子どもの教育に力を入れています。彼らの多くは避難所から来ており、最もケアを必要としているからです。特にことば（読み書き）を中心に教えています。また9歳以上のグループには英語講座を始めました。3～5歳のグループにはお絵かきなどを通して色の感覚を教えています。

今までで一番難しかった仕事は、子どもたち（特に避難所の子どもたちに対して）に普通の日常生活を送るための簡単なルールを教えることでした。現在子どもたちは学校へ来る前に身だしなみを整え、靴もきちんと履いてくるようになり、学校教材のおもちゃや文房具を持ち帰らないようになり

ました。また歌を歌うときは落着いて座り、共に歌うようになりました。暖かく居心地のよい場所を作ることによって、全く違う環境や厳しい現実社会からくる子どもたちが共生できるようになったことは大きな成果です。そして子どもたちが活き活きしてくるにつれ両親たちの意識も少しずつ変化し、この学校のシンボルの太陽を壁に描いたり、教室整備を手伝ってくれるなど、協力者やボランティアが生まれました。

12 月にはクリスマスパーティーを開きました。子どもたちは粘土でPRESEPE（プレセーペ）というクリスマス独特の飾りを作ることになり、美術学校の先生に指導をお願いし一緒に製作することができました。また招待客へのクリスマスカードも子どもたちが作りました。演劇の先生の指導で歌やダンス、劇の準備をすることもできました。当日はこの学校を支えてくださる婦人方がご馳走を用意してくださり、子ども 85 名、招待者 100 名もの盛大なパーティーになりました。ハリケーンによって心に深い傷を受けた子どもたちがわずか 2 ヶ月の間にこれほどまでに喜び、お客様に対して常識的な振る舞いをし、歌を歌い劇を披露できたことはわたしたちスタッフにとっても大きな喜びです。

これらの活動の大きな支えになったのはホンデュラスのボランティアたちです。彼らの存在とアイデアによってわたしたちは大変助けられました。その多くは学生や教師で、学校関係者に話してくれたおかげでいろいろな協力者が増えつづけています。例えば歯科医は歯ブラシ・歯磨き粉を提供し歯科衛生指導を行ってくれました。出版関係者は学校の教科書を集めるために働きかけてくれ、大学の教師は学生に本を提供してくれるよう呼びかけてくれています。

わたしたちスタッフとボランティアは、子どもたちの集中力と意欲が大きくなればなるほどこのような新しい教育プロジェクトを考えるようになりました。今後は設備（机・椅子等）を充実させ教材を購入し、学力の向上を目指す教育プログラムを作りたいと考えています。また健康な体の育成のために給食制度も実施できればと願っています。現在も通学する子どもたちは増えつづけています。子どもたちを受け入れることができるように、施設・設備を拡張することも必要です。そのためにも、引き続き日本のみなさんからご協力いただけるよう、スタッフ一同お願い申し上げます。

近況報告

5 月にホンデュラス社会福祉協会(AHPOS)主催のチャリティーコンサートを開催しました。今回の活動でホンデュラス社会福祉協会、エスクエリータ・デル・ソルの活動を幅広く紹介できたと思います。

ポスターやチラシは文化庁がすばらしいものを用意してくれました。またホンデュラスの文化活動団体、ボランティアの学生に広報活動を協力してもらいました。ホンデュラス社会福祉協会代表者は新聞のインタビューを受け、記事は中南米、アンティレ諸島の新聞に掲載されました。またコンサートの前日には、ラジオ局が宣伝をしてくれました。

当日の来場者は 400 名ほどで、なかには大使館・大学・高校・銀行関係者、また他 NGO 団体の人もいました。会場は無料で提供され、ホンデュラスの有名な歌手が無償で出演してくれました。会場内にはホンデュラス社会福祉協会、エスクエリータ・デル・ソルの活動紹介のパネルを展示し、来場者から質問が殺到しました。また子どもたちが作ったタペストリーも展示しました。

1,100 ドルの収益と寄付がありましたが、コンサート当日関係者が不在中に学校に泥棒が入り、多くのものを盗まれてしまいました。現在、鉄柵を学校周囲に取り付けるように準備しています。

ボランティア体験談　No. 1

加藤（かとう）　正規（まさのり）

今年の2月19日～3月15日まで約1ヶ月間エルサルヴァドルとホンデュラスに行きました。

ホンデュラスではエスクリエータ・デル・ソル（太陽の小さな学校）の活動に参加し、通学してくる子どもたちと一緒に遊んだり、勉強したり、歌を歌ったりして共に過ごしました。学校に通ってくる子どもたちは50～60人くらいで、特に3～10歳くらいの子どもが多かったと思います。その学校では2人のイタリア人と1人のエルサルヴァドル人がスタッフとして働いていました。

開校当時、子どもたちは生活の基本ルールを知らず、スタッフは毎日目のまわるような忙しさだったと聞きました。

確かに、子どもたちは時々やりたい放題だったことをわたしも覚えています。しかし根気をもって愛情深く子どもたちと接してきたからなのでしょう、少しずつ先生の言うことを聞くようになったり、他の子どもたちに思いやりをみせたりと人間らしい行動をとるようになってきたそうです。

ところで全員といってもいいと思いますが、通ってきている子どもたちはかなり臭く、ある時はあまりの臭いに吐きそうになりました。何日も洗濯していない汚い服を毎日着ていたり、靴もはいていなかったり、頭にはたくさんの毛ジラミを飼っていたりと日本では本当に考えられないほど不衛生な（それはやはり貧困からくるものです）環境の中で生活しています。実際に子どもたちが住んでいる家は豚小屋よりも小さく汚いところで、そこに何人もの人が生活しているのですから、それも理解できるようになりました。子どもたちの貧しさをものともしない活力、目の中を輝かせながら全てのことに関心をもつ態度、そして疑うことを知らないその純真さに心を打たれ、共に過ごすうちに心から抱き締められるようになるのですから不思議なものです。

わたしは子どもたちよりも年上ですが、逆に子どもたちから忘れかけていた大切な「何か」を教わりました。それは「生きる」ということは決してつまらないものではないということです。人は自分の意志に関わりなくこの世に生を受けます。時として自分の人生を否定し、時には呪いたくなることもあるかもしれません。この子どもたちは日本に住むわたしの視点から見ると確かに「不幸」なのかもしれませんが、目を輝かせ魂を燃やしながら一生懸命生きているその姿は本当に人間らしい姿です。そのような意味で子どもたちは真に「幸せ」なのかもしれないと思いました。子どもたちと同じようにいつまでもこの気持ちを失わずに自分も生きてゆくことができたらいいなあ、と感じた1ヶ月間でした。

エスクエリータ・デル・ソル
太陽の小さな学校

お絵かきの時間

スタッフと子どもたち

学校のシンボル　太陽の壁画の前で

おやつの時間

イタリア人スタッフと子どもたち

読み書きの時間

ボランティア体験談　No. 2

岡本（おかもと）　朋子（ともこ）

今年の春休みにホンデュラスに２週間滞在し、エスクエリータ・デル・ソル（太陽の小さな学校）という子どもたちのために開放された場所でさまざまな経験をし、貴重な時間を過ごすことができました。初めは子どもたちのパワーに翻弄されていたわたしでしたが、毎日接しているうちに自然体になっていました。

子どもたちはどんな瞬間も驚きの目や好奇心をもって学んでいて、友だちと遊ぶことや掃除をすることなど日常の些細なことも子どもたちにとって大きな意味があるように思いました。そんな子どもたちを見ていると、自分がこれまで多くの物事の意味を見過ごしてきたのではないかと思ったりしました。

滞在中は言葉に表わせないほど嬉しかった出来事がいくつもありました。散らかった色鉛筆を片づけている子がいたのでわたしも手伝い始めると、他の子も一緒に片づけ始めてくれました。女の子が花をわたしにくれたのでスペイン語でお礼を言うと、次から次へと子どもたちが集まってきてお花をくれたこともありました。その中でも一人の少女との出会いは特に印象に残っています。

その女の子はいつもムスッとして眼差しから口に出さなこい不満や怒りを感じました。わたしはその子の気持ちを目の表情からしか垣間見ることができず、その子を理解できないことに自分の無力さを感じていました。何も興味も示さないその女の子が初めてかすかに微笑んだ日のことは忘れられません。彼女の内面にどんな変化が起こったのかは分かりませんでしたが、わたしは少し安心することができました。それからその女の子は少しずつ笑うようなり、わたしまでもが幸せで楽しくなるような満面の笑顔と笑い声で「おんぶして」「抱っこして」とせがんでくるようになりました。最後の日、女の子がいつものようにわたしの名を連呼し心から楽しそうな姿を見た時、会えてよかったと心から思いました。この子どもたちのことを決してわたしは忘れないでしょう。

またここのスタッフがなぜ一生懸命働いているのか、彼らと行動を共にして少し分かった気がします。彼らは子どもたち、友人、そしてわたしに対して、いつも深い愛情を持って接してくれます。そんな彼らを見ると、一緒に努力したい、環境や立場が違ってもわたしもそんな行動が取れるようになりたいと思いました。

また自分を幸せにすることは本当に素朴なことだと分かりました。わたしはないものねだりでいつも満足してなかったけれど、今は自分を取り巻く環境やわたしと関わってくれる人たちに感謝したい気持ちでいっぱいです。

ホンデュラスでの経験は、わたしに意味のある大学生活を考えさせてくれました。そして頑張っている友だちがそばにいてくれることがわたしの原動力です。わたしは一人の人間として自分の役割を考えながら生きていきたいと思います。

講座紹介

英語講座を受講して

関口　順子

わたしがこの講座を受けたきっかけは、学生時代に英語を専攻していたこともあっていつか英語に携わる仕事に就きたいという思いと、海外でいろいろな人とコミュニケーションがとれたらどんなにいいだろうという思いからです。

この講座でマレーシアの留学生と話す機会があり、一人で文法を勉強するのも必要ですが、実際に人とコミュニケーションをとることも大切だと改めて思いました。

授業の中で英語の音楽を聴いて曲の意味を考える時間がありますが、わたしはそれが一番好きです。今まで雰囲気だけで気に入っていた曲も、詩の意味が分かるといっそう曲の深さが味わえるからです。

これからも夢に向かって頑張っていこうと思います。

楽しくて為になるイタリア語講座

藤井　加代子

イタリアを初めて訪れた際に、明るく響き流れるように美しいイタリア語、わたしが解らないと伝えても構わずイタリア語で話しかけてくる人々、建築物の美しさなどに強く惹かれました。このような経験から、イタリア語を学びたいと思い始めました。ちょうどその時、友人からこの講座の入会を誘われ迷わず受講することを決めました。しかも、わたしたちの授業料が異国の子どもたちの援助に役立つのは願ってもないことでした。

授業では、語学はもちろんのことイタリアの生活、芸術、文化など、数えられないほど学ぶことができます。そして何よりも、先生の個性と語学講座を超えた魅力がわたしの勉強への意欲を増し、毎回授業を大変愉しみにしています。このような楽しい講座をもっと多くの人と共有できればと願っています。

イタリア語講座

オリーブジャパン講座案内

少人数制で楽しく学べる当協会オリジナル講座の一覧です。
講座の収益はすべて中南米の貧困に苦しむ子どもと若者への教育支援事業に使わせていただきます。
詳細はオリーブジャパン事務局までお問い合わせください。

語学講座

ESPAÑOL　初級スペイン語講座

基礎から学べる初級文法＆会話

日　時　毎月第1･3水曜日　19時30分～21時
会　場　藤が丘コミュニティーセンター
月　謝　5,000円

ITALIANO　中級イタリア語講座

イタリア人講師による実践会話レッスン

日　時　毎月第2･4金曜日　19時～20時30分
会　場　イタリアンカフェ　フォロン
講　師　Angela Volpe
月　謝　6,000円

ENGLISH　やさしい英会話

聞ける・話せる英会話習得プログラム

日　時　毎月第1･3水曜日　19時～20時30分
会　場　藤が丘コミュニティーセンター
講　師　汲田紀美子
月　謝　6,000円

文化講座

洋画入門講座

「楽しんで絵をかく」がモットーの教室です

日　時　毎月第2･3火曜日　19時～21時
会　場　東生涯学習センター
月　謝　4,000円（画材実費）
講　師　柴田高良

イタリア料理講座

前　期　4・5・6・7・9月（5回）
後　期　10･11･1・2・3月（5回）
会　場　イタリアンカフェ　フォロン
講　師　柴田淑美
月　謝　1講座　4,000円（食材費込み）
特　記　日時は相談して決めるので変動します
（日曜日の昼11時からが多し。3時間程度）

問い合わせ　：　オリーブジャパン国際開発協力協会
TEL･FAX 0561－85－8336（水11時～15時 受付）

収支報告 1999年4月～2000年3月収支決算

単位:円

収入		支出	
前年度繰越金	**4,147**	海外支援事業費	4,666,200
		広報活動事業準備費	206,580
会費収入	288,000	印刷費	12,675
寄付金収入	1,375,429	賃借料	186,100
補助金・助成金収入	2,779,000	消耗品	127,426
広報事業収入	1,820,351	備品	476,043
		人件／交通費	382,700
		通信 郵便／電話	140,400
		資料費(写真)	14,105
		その他	50,711
		次年度繰越金	**3,987**
合計	6,266,927	合計	6,266,927

会員制度のご案内

オリーブジャパンの活動内容に賛同していただける個人・団体は、会員制度で一年中オリーブジャパンを支えることができます。

A) 賛助会員（1ヶ月一口 10,000円）
B) 正会員（1ヶ月一口 5,000円）
C) 協力会員（1ヶ月一口 2,000円）
D) 参加会員（1ヶ月一口 1,000円）
E) 同調会員（1ヶ月一口 500円）

＜申し込み方法＞

郵便局所定の「郵便振込用紙」に必要事項と会員の種類、納入方法（月払い／年一括）を記入の上、会費を納入ください。後日事務局より受領の案内をさせていただきます。

口座番号：00890-1-24582
口座名義：オリーブジャパン国際開発協力協会

- ✧ 会員期間は振込日より一年、継続希望の方は更新可能です。
- ✧ 会員のみなさまには会報「OLIVE PRESS」と講演会・バザーなどのご案内を優先的にさせていただきます。
- ✧ 臨時寄付も随時受付けています。

OLIVE PRESS　No.4　　定価　350 円

発行日　2000 年 7 月
編　集　オリーブプレス編集部
発　行　オリーブジャパン国際開発協力協会
〒489-0809　愛知県瀬戸市共栄通 3 丁目 57 番地
第 2 泉荘 A号室